

## 福岡市柔道協会

【設立年月日】1947（昭22）年

【加盟年月日】1962（昭37）年

【歴代会長・理事長】（ ）は主な出来事

年代	会長	理事長
1947（昭22）年	竹村 茂孝	
	（1回九州各県警察柔道大会）	
1948（昭23）年	久永 貞男	
	（3回福岡国民体育大会） （S34第1回九州選手権） （S41全日本選抜柔道大会）	
1963（昭38）年	荒井 一三	
1973（昭48）年	岩崎 茂成	
1979（昭54）年	石橋 弥一郎	上野 武則
	（S57福岡国際女子柔道大会）	
1990（平2）年	井上 光	二宮 和弘
1991（平3）年	平田 才蔵	二宮 和弘
1992（平4）年	藤田 弘明	二宮 和弘
	（H7ユニバシアード福岡大会）	
1999（平11）年	中島 博康	中西 一三
2005（平17）年	二宮 和弘	中西 一三
2009（平21）年	二宮 和弘	藤春 孝志

### 【沿革】

福岡市柔道協会は、福岡の地で営々と柔道に精進された竹村茂孝先生はじめ諸先生方が柔道の再建と発展を目指し討議を重ね、1947（昭22）年秋、設立された。初代竹村茂孝会長の働きかけにより県、九州柔道協会や全日本柔道連盟が結成され戦後初の全国大会である新生柔道大会の開催、更に1948（昭23）年の第3回福岡国体にオープン参加の運びとなり柔道がスポーツの檯舞台に登場することとなった。

福岡市柔道協会は歴代会長（竹村・久永・荒井・岩崎・石橋・井上・平田・藤田・中島）らの努力によって強化充実された。特に、故竹村3兄弟（茂孝、岩崎茂成、茂昭）が会長を長期にわたり務められ、市柔道協会の発展はもとより、柔道王国九州（福岡）

を不動のものとした業績は大であろう。現在は二宮和弘八段（地区柔道協会会長）の新体制のもと協会さらなる柔道の普及発展に努めている。

福岡市では2つの大きな全国大会が開催され、その大会運営は主に市柔道協会の手によってなされている。

その1つは1916（大5）年に始まった金鷲旗高校柔道大会である（開催場所、マリンメッセ福岡）。戦前、戦後数々の名選手を輩出し福岡市の柔道レベルアップに貢献している。今年で85回を数え、近年では全国から集まる高校生に加え、海外からの参加校も増加しており男女合わせて400校以上が参加している。自由参加ということから全国多数の強豪校が参加しており、毎年非常にレベルの高い大会となっている。



金鷲旗高校柔道大会

その2つは1966（昭41）年から開催されている全日本選抜体重別選手権大会である（開催場所、福岡国際センター）。各階級（7階級）の全日本強化選手トップ8名がトーナメント戦で激突する。この大会は世界選手権・オリンピック出場の最終選考をかねる大会となっている。2007（平19）年からは、別開催となっていた男女が統合された大会として行われている。

その他、1983（昭58）年から福岡の年末の風物詩として福岡国際センターで行われていた福岡国際女子柔道選手権大会、過去には地元福岡市出身の

谷亮子（旧姓・田村）の48kg以下級11連覇など大変熱気のある大会も2006（平18）年まで実施してきた。

このような全国、国際的な試合を肌で感じる事ができ、全日本トップクラス選手の技をじかに見ることが出来るのは幸せなことである。故に福岡市は全国的に柔道王国と言われる所以でもあるのではなからうか。

また福岡市内の各団体は柔道選手強化に力を注いでいる。

社会人柔道では福岡県警・九州電力・福岡刑務所等がそれぞれ柔道部を擁し警察・実業団・刑務官の全国大会で常に上位の成績を残している。国際的に活躍した選手には、1976（昭51）年開催のモントリオールオリンピック優勝の二宮和弘、園田勇（福岡県警）の両選手があげられる。当時、日本は勝つて当然であるというプレッシャーのなかで、期待に応え金メダルを獲得した。その後、福岡市から巣立った選手が続々と活躍する。1992（平4）年バルセロナオリンピック出場の谷亮子（旧姓・田村）、決勝戦はフランスのノバクに惜しくも敗れて銀メダル。さらに1996（平8）年アトランタオリンピックでは中村3兄弟・谷亮子が出場、中村兼三が見事に金メダル、谷選手金メダルが大いに期待されたが北朝鮮のケー・スンヒによもやの敗退、またもや銀メダルに終わる。その後、2000（平12）年シドニーオリンピック・2004（平16）年アテネオリンピックに谷亮子・日下部基栄（福岡県警）が出場し、谷は両大会において念願の金メダルを獲得、日下部も両大会で銅メダル。谷は2008（平20）年北京オリンピックにおいても銅メダルを獲得した。

大学柔道では、福岡大学が九州地区では抜群の強さを誇り、2003（平15）年男子全日本学生柔道体重別団体優勝大会において3位入賞、全日本学生優勝大会においても、ベスト8に入賞するなど着実に力をつけている。

大学個人では、1995（平7）年ユニバシード福岡大会では、福岡市出身の3選手が出場し、中村兼三（71kg級、東海大）、谷亮子（48kg級、帝京大）

は圧倒的な強さで優勝、小斉武志（95kg級、福岡大）が3位入賞と活躍した。2010（平22）年全日本学生柔道体重別選手権大会で七戸龍（100kg超級、福岡大）が優勝するなど、優秀な人材が関東、関西の大学に流出するなかで福岡大学は見事な成績を残している。

高校生は、古豪福岡大大濠が常に県内のトップレベルにおり、2004（平16）年高校総体、2009（平21）年金鷲旗では3位入賞しており、個人においても2009（平21）年高校総体で水田良一（100kg超級）が優勝。女子は谷亮子や日下部基栄を擁した福工大付属高校（現・福工大城東）が金鷲旗大会で4度の優勝回数を誇り、その後も数々の大会で好成績を収めている。

中学生も、沖学園中学を筆頭に香椎第二中学、千代中学などが好成績を上げている。

少年柔道は、市内約20カ所で行われているが、特に東福岡柔道教室は全国少年柔道大会で、数多くの優勝経験を持ち、谷亮子、中村三兄弟（佳央、行成、兼三）、日下部基栄を輩出している。また、2008（平20）年全国小学生学年別柔道大会で山本玲奈（月隈柔道クラブ）が6年生45kg級で優勝、山本絵玲奈（同）45kg超級で準優勝するなど、将来の世界チャンピオンを夢見る子供たちが、各道場で毎日熱心に稽古に励んでいる。

以上、特質されるものを述べたが将来の日本柔道界を背負って立つ優秀な人材育成には、小学生から社会人まで一貫した長期的な選手強化はもちろん、指導者も目まぐるしく変化する国際ルールや情報に常にアンテナを巡らせておくことが不可欠であろう。

おわりに、福岡の地で全国レベルの大会を開催することができ、幾多の優秀な選手を数多く輩出し、強化育成ができる事に感謝し、今後も世界を目指す選手を育成するのはもちろん、生涯柔道の環境作りに尽力し、加納治五郎師範の「精力善用」「自他共栄」を目指しつつ柔道界発展、スポーツ振興、青少年の健全育成のために貢献したい。